

碧南市青少年育成市民会議だより 第78号

ふれあい

問 市青少年育成市民会議 ☎42-3511

碧南市青少年育成モデル地区 青少年育成中央地区推進委員会

大人が変われば子どもも変わる ふれあい地域の輪

令和4年度の碧南市青少年育成モデル地区は中央地区です。

青少年育成中央地区推進委員会は、地区連絡委員を始め各団体の代表者、学校関係者等総勢25名で組織しています。地域のふれあいの輪を広げ、笑顔のあふれる青少年の健やかな成長を願って、4名の青少年育成推進員を中心にさまざまな行事を行っています。

中央地区「こども110番の家」講習会

6月23日(木)、こども110番の家の代表者の方々にご参加いただき、講習会を開催しました。

中央地区には42軒ほどの登録があります。

講習会では、碧南警察署生活安全課長様からご講話をいただき、「こども110番の家」の役割について、お話しいただきました。

その後、愛知県警防犯活動専門チーム「のぞみ」による寸劇があり、いざ子どもが駆け込んできたら「どう対応したらよいか」「話の聞き取り方」「110番への通報」など具体的に教えていただきました。

今後は、こども110番の家のマップを作成し学校で活用していただこうと考えています。



「こども110番の家」スタンプラリー

一昨年より始めた行事です。通学途中の安全確保のため、こども110番の家の場所とその目印となるのぼり旗を知ってもらいたいと思い企画しました。昨年は16組の親子を含め、45名の参加者がありました。今年も行い、いざという時に駆け込めるよう周知を図っていきたいと思います。

(写真は昨年の様子です)



◎今後の予定

- 11月 6日(日) 公民館まつり
- 12月18日(日) こども110番の家スタンプラリー
- 2月 5日(日) ふれあい子どもクッキング
- 3月 3日(金) 青少年育成中央地区推進委員会

市内7つの青少年育成地区推進委員会の活動

「親子の、地域のふれあい」を大切にしていますか？

碧南市では、各地区にいる青少年育成推進員を中心に青少年育成地区推進委員会を設置し、親子のふれあい行事、体験活動を実施しています。その中で、親子のふれあい、地域の人々と子どもたちとの交流を深めています。今年もコロナの感染状況が収まりませんが、従来各地区で行われていた行事が少しずつ実施できるようになりました。これまで2年間の空白があるので、推進員さんは他地区の行事にも積極的に参加し、経験値を上げる努力をしています。

西端地区

- 8月13日、14日 盆踊り愛のパトロール
- 9月 4日 親子ふれあい食品サンプル作り
- 9月25日 親子地引網&バーベキュー
- 11月20日 公民館まつり
- 1月29日 区民ふれあい長縄とび大会



【西端】食品サンプル作り

棚尾地区

- 8月14日、15日 盆踊り愛のパトロール
- 8月21日 なつのおもしろフェスティバル
- 11月20日 早朝ウォーキングとクリンピー
- 12月 4日 みんなでもちつき大会
- 12月10日 協力一致長縄とび大会



【棚尾】おもしろフェスティバル

中央地区

- 5月23日 こども110番の家講習会
- 7月24日 親子ふれあいバスツアー
- 11月 6日 こども110番の家スタンプラリー
- 2月 5日 ふれあい子どもクッキング



【中央】こども110番の家講習会

日進地区

- 5月22日 春の花壇・フラワーポットの花植え
- 8月20日 ふれあいデイキャンプ
- 8月26日～28日 早朝ラジオ体操
- 11月20日 秋の花壇・フラワーポットの花植え
- 1月31日～2月3日 防火夜回り



【日進】デイキャンプ

新川地区

- 5月15日 新川クリーン&ウォーク
- 10月16日 公民館まつり
- 11月12日 親子バスハイキング
- 12月17日 あいさつ川柳コンクール



【新川】クリーン&ウォーク

鷺塚地区

- 5月22日 春のうきうき社会見学
- 6月26日 昔のあそびあれこれ
- 11月 6日 ふれあいレクリエーション大会
- 1月15日 ふれあいもちつき大会



【鷺塚】昔の遊びあれこれ

大浜地区

- 5月25日 春の体験農園
- 6月28日 防犯モデル地区巡回
- 7月17日 親子ふれあいバスの旅
- 9月18日 わくわくビーチカップ
- 10月30日 レールパークスタンプラリー



【大浜】防犯モデル地区パトロール

青少年育成市民会議の主な活動

青少年育成市民会議では、市民総ぐるみで青少年の健全育成が図れるように啓発活動をし、親と子のふれあいや地域のおとなと子どものふれあいに焦点をあて、活動を進めています。

青少年とともにすすむ夏の運動

強調月間 7月1日～8月31日

県の推進する「青少年の非行・被害防止に取り組む県民運動」と連携し、学校や保護司、民生委員の方々とともに「非行の芽 早めにつもう みな我が子」をスローガンに「夏の運動」を展開しました。

- 元氣ッス！へきなんでの啓発活動を実施
- 夏休み期間中における児童・生徒への生活指導
- 青少年の非行防止と事故防止のためのパトロール
- 夏の地区盆踊り等でのパトロール

青少年によい本をすすめる運動

～育てよう 豊かな心 読書から～

強調月間 10月1日～10月31日

読書好きな子は、読書好きの家庭から

良い本との出会いは、心を動かし、受身ではなく自らのこととしてさまざまな内容に向き合うことを促進します。その中で、子どもたちは心の幅を広げ、思考力を育むことができます。

強調月間に限らず、市民図書館、中部分館、南部市民プラザでは、読み聞かせを行っています。

絵本、読み聞かせ等、子どもの実態に合わせ、本との出会いの機会、読書環境を大切にしましょう。

「親子キャッチ575」～今年で19年目に～

市民会議では、親子のふれあいの機会を創出する目的で、「親子キャッチ575」に取り組んでいます。

「家族の絆」「地域の絆」「命の大切さ」「人への思いやり」をテーマに親子で川柳にして、気持ちを伝え合う事業です。

毎年4,000点ほどの作品が集まります。ウィットのきいた親子のやりとりが34文字の中に表現されています。

一昨年より世情を反映したテーマを加えるようにしました。一昨年は「コロナ禍」昨年は「東京オリンピック」。今年は「戦争のない、平和な世界への願いや想い」を加え募集しました。

<昨年の最優秀作品から>

ぼく「走りたい リレーの選手に なれたから」
母 「運動会 子どもにとっての オリンピック」
ぼく「思春期が 作る母との ディスタンス」
母 「聞く耳を 持たぬ思春期 すぐイヤホン」

<その他の主な活動>

- 機関誌「ふれあい」の発行（10月、3月）
- 元氣ッス！へきなん、きらきらウォークでの啓発活動（8月、12月）
- 「家庭の日」運動の実施
強調月間（2月1日～2月28日）
- 毎月第3日曜日の「家庭の日」啓発推進

元氣ッス！でチャレンジショップ ～3年ぶり開催で生き生きと～

青少年育成推進員連絡会

従来通りの市役所前での市民総踊りとはいかないまでも、3年ぶりに元氣ッス！へきなん「#まんぶく元氣ッス！」が開催されました。飲食関係はキッチンカーや商店に任せ、青少年育成推進員連絡会では、今まで行ってきたかき氷の販売をやめ、スーパーボールすくいと缶バッジ作成を行い、親子ふれあいの場を創出しました。

これまでに親子で撮った写真をもとにつくった世界に1つの記念バッジ。慎重にすくったスーパーボール。親子で楽しそうに参加する姿はとても微笑ましく、親子の絆が深まるものとなりました。

また、青少年育成市民会議が取り組む夏の運動の啓発品であるマスクケースを配りながら、『青少年とともにすすむ夏の運動』を展開しました。



あいさつはお互いを認め合うこと

碧南青年会議所 鈴木 将大

みなさん、こんにちは。私も含めた大人のみなさんに問いかけたい。元気にあいさつをしていますか。マスク生活の影響なのか、あいさつをしても聞こえないぐらい小さな声の人が増えたと感じます。あいさつは人と人が関係していく上での最初の一步、基本です。

私も含めて問いかけたいと言ったのは、自分にも思い当たる節があるからです。朝、会社の横を通学する小中学生のみなさんに「おはようございます」とあいさつする時と、しない時、しても声が小さい時があるからです。私は人間関係の基本ができていないことになります。そして、周りを見渡してみるとできていない大人がいかにか多いかということに気が付きます。

「おはよう」「こんにちは」は基本にも関わらず・・・。

子どもに言う前に大人が示さなければいけません。通学路でのあいさつはもちろんのこと、買い物に立ち寄ったコンビニでもしっかりあいさつを返したいものです。

みなさんに一つ試してみてほしいことがあります。あいさつする時に相手の名前を呼んでみてください。「〇〇さんおはよう」と名前を呼んで友達にあいさつをしてみてください。きっと相手もあなたの顔を見てあいさつを返してくれるはずです。



あたりまえの対義語

碧南高校PTA会長 池谷 安広

この原稿の執筆している7月、新型コロナウイルスの第七波による感染者数が、全国で過去最多を更新している状況です。コロナ禍前では、いわゆる普通の生活、普通の日常を過ごしていましたが、そんな「あたりまえ」だと思っていた生活が世界中で非日常へと変化していきました。

「あたりまえ」の対義語は「ありがとう」。ありがとうは、漢字で「有難う」。「有難し」という言葉が由来と言われています。有ることが難しい、滅多にな

コミュニケーションのとり方を変えてみると…

碧南市小中学校生徒主事・主任会 牧田 英士

「大人が変われば 子どもも変わる」多くの人は、大人が模範となるよりよい行動を子どもに示せば、子どももよりよく育つといった解釈をしていると思います。私も以前はそうのように考えていました。

しかし、最近はこの「ことば」を少し違った観点から解釈するようになりました。

例えば、子どもを叱る際に、子どもが黙り込んで何も話さなかったとします。こんなとき「どうして黙っているんだ」と子どもに怒りの感情のベクトルを向けてしまいがちです。

ここで子どもではなく、自分に思考のベクトルを向けてみます。

「この子はなぜ黙っているんだ」ではなく、「私はなぜ黙らせてしまったのか」と自分に問うわけです。

話の聞き方が高圧的ではなかったか、人目につく話しぶり場所ではなかったかなど、接し方の改善を図ります。そうして子どもの気持ちに寄り添えば、話せるようになることもあるかもしれません。

子どもとの「コミュニケーションのとり方」を大人が変えてみれば、子どもも変わっていくのではないのでしょうか。今後も、子どもたちのよりよい成長を願って、子どもとの関わり方、向き合い方について思慮を深めていきたいと思います。

い、貴重だという意味をもつそうです。

まさに今の生活の状態で、今まで「あたりまえ」にあったことがなくなったり、出来なくなったり、本当に「有難し」、ありがたいことだったことが身に染みて感じます。

いろいろ手軽に何でもできる便利な世の中ですが、それを「あたりまえ」に思い、「有難い」ということを我々大人も忘れてないでしょうか。「ありがとう」は感謝の言葉です。感謝の気持ちを大切にする姿勢をまずは、大人の私たちが示すことで子どもたちの成長の力になっていくことを願います。